

K S K Q かがやき

編集人
社会福祉法人
かがやき神戸を支援する会

<https://kagayaki-kobe.jp>

- 目次
- P1「理事長の挨拶」
 - P2「Instagramやっています／第29回地域ふれあいまつり案内」
 - P3「西区クラウン活動の報告」
 - P4.5「かがやき神戸に出会って」
 - P6「夢ホームへの道part14／法人・支援する会の動き」
 - P7「支援する会たより」
 - P8「会費を納入頂いた方・お願い・編集後記」

カメのようにゆっくりと

社会福祉法人かがやき神戸 理事長 松原 建二



今年は例年にない猛暑が続きましたが、皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか。この便りがお手元に届くころには、秋の訪れとともに過ごしやすい季節になっていることと思います。

さて、皆さんはペットを飼っていますか？ペットといえば犬や猫を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、私はミシシッピニオイガメというカメを飼っています。成長しても体長15センチほどの小さなカメで、水槽の中をスイスイと泳ぐ姿はとても涼しげです。人が近づくと餌をねだってジタバタする様子も愛らしく、つい餌をあげすぎて少し肥満気味に…。手足を引っ込めてもお肉が邪魔をして引っ込みきらない姿に、つい笑ってしまいます。

話は変わりますが、先日きょうされん兵庫支部では、県への要望書提出に向けてアンケートを行いました。事業所、利用者、ご家族から多くの回答が寄せられました。その中で特に多かったのは「人材不足」の声です。人手が

足りず、ショートステイを開所できない、ヘルパー不足で支援が十分に行えないなどの現状が寄せられました。利用者からは所得保障や将来の住まいに関する不安、家族からは「親なき後」の心配やショートステイ・ヘルパーを使いたくても利用できない現状が寄せられています。

アンケートの結果を受け、かがやき神戸が目指す「重度重複障害対応型グループホーム」と「強度行動障害対応型グループホーム」の建設は、やはり必要だと強く感じています。課題は多く、特に人材不足と建設資金づくりは大きな壁ですが、一つずつ解決しながら実現を目指します。

なかなか前に進まずもどかしいこともありますが、カメのようにゆっくりでも、一步一步着実に進んでいきたいと思っています。



Instagramやっています

最近、はやりのSNS（ソーシャルネットワークサービス）をかがやき神戸でもやっています。特にInstagramは週に2回～3回ぐらいのペースで近況をお伝えしています。是非、フォローしてください。お持ちのスマートフォンにInstagramのアプリをダウンロードしていただき、kagayakikobeと検索していただくか、QRコードをよみこんで上から2番目のInstagramを選択してください。



Instagram
QRコード

フォローをお願いいたします！



第29回地域ふれあいまつりのご案内



例年たくさんの皆様にご来場いただいている「地域ふれあいまつり」が今年も開催されます。みなさまのご来場お待ちしております。

第29回地域ふれあいまつり ～つながる ふれあう えがおのわ～

日時：2025年11月15日（土）10：30～14：00（雨天縮小開催）

場所：神戸市立広陵小学校

おいしい料理が並ぶ模擬店にゲームコーナー、野菜や手作り品の販売にダンスや音楽のステージもあります。※駐車場はありません。障がいや高齢など事情のある方に限り、前日までに事前予約をお願い致します。

問合せ先：かがやき神戸 078-582-5544（大島 山本）

西区クラウン活動報告

クラウン講師 白井 博之（しらい ひろゆき）先生

かがやき神戸西区事業所では、毎月2回、クラウン（道化師）のレッスンを受けています。今回、指導を担当されている白井先生のお話を掲載いたします。



かがやき神戸でのクラウン・プロジェクトが始まって、来年でちょうど20周年となります。立ち上げから現在まで多大なるお力添えを頂きました、かがやき神戸の職員の皆様、ご家族の皆様、支援する会の皆様、そして何より、施設利用者である愛すべき仲間たちに、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

2006年、北区本施設での立ち上げの際は、北区・西区の利用者さんが合同でレッスンを行っていました。その後、北区は山の街にてクラウン専門の事業所「ぐりいと」を立ち上げ、西区は櫛谷の趣のあるログハウスのような施設での稽古となりました。

そして王塚台に「ミニなでしこ」が開所してからは、なでしこ・虹の里・ミニなでしこのメンバーさんが月に2回、ミニなでしこに集まって、楽しくレッスンさせて頂いております。

昨年春に、北区ぐりいと、そして西区クラウン教室の初の合同発表会を開催させて頂きましたが、その終了直後から、特に普段あまり発表の機会の少ない西区の皆さんから「とにかく楽しかった！」「ぜひまた出演したいです！」「来年はいつやるんですか？」「日にちはいつですか？」「場所は決まりましたか？」と、私が稽古に行く度に、みんなから熱いラブコールを頂きました。その後北区・西区の職員さんにご相談しまして、今年は10/24に櫛谷にて発表会を行うことが決まりました。みんなの喜ぶ顔を見て、私も本当に嬉しく思いました。

クラウンは、「上手いいかないこと」をわざとお客様にお見せして、笑って頂き拍手を頂くという、とても興味深い特徴を持っています。普通ほとんどのエンターテインメントは、技術的な上達に向け

て稽古するものですが、クラウンは「いかに上手く行かないか」を真剣に考え、演者自身の個性的なキャラクターをもって笑いに変わって行くので、理屈抜きで本当に面白く、何とも言えないその人の魅力を引き出して行くのです。

かがやき神戸の支援の必要な皆さんにとって、そんなクラウンはまさに天職！大真面目に取り組めば取り組むほど、その上手く行かない様子が、名立たるプロのクラウンたちが恐れ、悔しがるほど魅力的で面白いのです。

どんな障がいがあっても、みんなひとりの人間として、表現したい気持ち、そして人から認められたい気持ちを必ず持っています。そんな人としての本能的な欲求に応えられるのが、彼等にとってのクラウンなんだと実感しながら、日々の稽古を楽しく実施させて頂いております。

毎回の稽古は楽しいアクシデントの連続で、本当に笑いの絶えない素敵な時間を過ごさせて頂いております。これからもずっと皆さんに寄り添ってクラウンを続けて行きたいと心から願っております。今後共、どうぞよろしくお願い致します。



かがやき神戸に出会って ～支えてくださる方の思い～

「息子の成長を見守って」

西家族会会長 千葉 恒世 (ちば つねよ) さん



私が初めてかがやき神戸を知ったのは、今から20年くらい前に樫谷のホームページを作ろうと思って取材のために見学をした時です。木工や、紙すきを見学させていただいて、施設の説明をいろいろ聞かせていただきました。その時は、かがやき神戸にかかわろうと思っていなかったのですが、ちょうどこの時期に長男が仕事をやめて家で引きこもりがちになり、見学させていただいた時のことを思い出して、本人と女房が施設を見学させてもらい、虹の里に行かせていただくことになりました。

息子は、職員のかたに話を聞いていたいたり、仲間たちと話し合ったりしながら、農作業をしたりして、コープ作業にも参加できるようになりました。しかし、その間にも何度か行けなくなり、職員のかたの励ましもあってなんとかやってきました。

施設の職員のかたの苦勞を見てきたので、私もできる限り、かがやき神戸の活動に協力したいと思いました。ちょうどこの時期に、西の家族会の会長さんと副会長さんが家族会の活動から手を引きたいということで、家族会を解散したいという話になりました。

家族会にお世話になったこともあり、家族会がなくなることに危機を感じ、会長に立候補し、会長になりました。

新しい会長になった当初はとまどうことも多く、かがやき神戸の活動に関しても知らないことが多く迷惑をかけることも多かったと思います。そして、まず私がしたことは、かがやき神戸をもっと知るために約1年間、虹の里でボランティアをさせていただくことでした。ボランティアの活動の中で障害者に対する接しかたや、施設に対して理解を深めることができました。また家族会で月に1回、Ricoで食事会を開き食事をしながら悩みや、子どもたちの様子を話し合ったりしました。

私も子どもの将来のことを考え、なんとか家を離れて独立させたいと思っていました。しかし、なかなかうまくいかず、第一歩としてグループホームを提案していましたが、本人がその気にならず、2年ほどが過ぎました。家族会の話し合いで得たグループホームの情報を子どもに話したり、職員のかたの説得により、ようやくグループホームに入居しました。一歩前へ踏み出し入居しましたが、家からでた解放感からか、生活が乱れ、職員のかたの指導で少しは改善に向かっているようです。まだまだ親にとっては心配なことが多く、すべてが解決したわけではありませんが、施設のかたの力を借りながら前へ進んで行ければと思っています。

かがやき神戸に出会って ～職員の思い～

「ありがとう」

森友寮職員 永峰 幸子 (ながみね さちこ)



私は23年前、かがやき神戸に出会いました。私にしてみればもう23年経ったのかあっという間のことと思えます。主人の転勤で右も左も分からない明石に引っ越してきました。職安でたまたま偶然に求人票を見て応募しました。私にとって初めての福祉の仕事、出勤の初日になって急に不安になり、かがやき神戸に向かうバスの中で勤務先に行くのか行かないのか迷いに迷い、バスを降り家に帰ることにしました。明石駅から辞退の旨を連絡すると当時の事務局長の作田さんが電話に出られました。理由を伝えたところ「今どちらですか？」と聞かれ、「明石駅」と答えると、「その場に待ってください、迎えに行きます」と言ってくださいました。迎えに来られても無理だと思いますと断りました。家に帰り着いたら連絡しますとお伝えしたことも忘れません。

家に帰る途中、娘に会い、今日の話を話すと娘から「行ってもいないし仕事もやってもいないのに行けないとかやれないとかは分からないと思う。お母さんの年齢で、そこまで言ってもらえること、たぶん無いと思うから、行って働いてから決めたら」と言われました。どうしようか迷っていると前理事長池山さんから電話がありました。「何も心配すること

はありませんよ。一度来てみてください」と言ってくださいました。私にとって、この3人の言葉がなければ、かがやき神戸で働いていなかったと思います。

それから気が付けば23年、たくさんの思い出が書ききれないほどあります。今振り返ってみると長かったような短かったような23年間でしたが、本年9月で定年退職をいたします。この23年間の間で、たくさんの利用者さんにも出会え、たくさんの思い出を作ることが出来ました。私の一生の宝物になりました。

何もできない私が利用者さんのお世話を出来たことにも、「永峰さん、永峰さん」と声を掛けてもらったことも忘れません。

そして私に良くしてくださった、かがやき神戸の職員さん、またここまで育ててくださったグループホーム責任者の高島さん、ありがとうございました。

みなさまへ感謝してます。



夢ホームプロジェクト Part14

YUME HOME PROJECTチャリティ映画会開催決定！

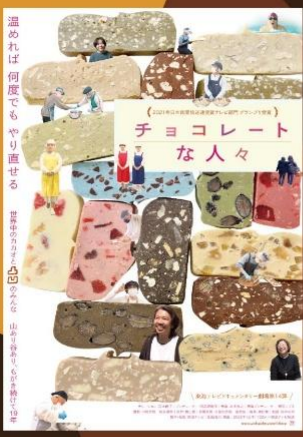


YUME HOME実現に向け、映画会を開催することになりました。舞台は、愛知県豊橋市のチョコレート屋さん「久遠(くおん)チョコレート」。様々な障がいのある方々が働きやすく、しっかり給料を稼ぐことができる職場づくりを目指したドキュメンタリー映画、『チョコレートな人々』です。道は違えど、想いや願いに向かって突き進む姿は、まさにYUME HOME建設そのものです。

この映画会が、かがやき神戸の関係者みんなの想いでもあるYUME HOME実現に向け、一歩前進する場になればと考えています。是非とも、多くの方々のご来場をお待ちしております。

YUME HOMEプロジェクトチャリティー映画会
「チョコレートな人々」
特別上映会

「久遠(くおん)チョコレート」は、障がいのある方々が働きやすく、しっかり給料を稼ぐことができる職場づくりを目指したドキュメンタリー映画。道は違えど、想いや願いに向かって突き進む姿は、まさにYUME HOME建設そのものです。



チョコレートな人々

日 時 2026年 3月 14日(土)

会 場 西区文化センター なでしこホール
〒651-2273 神戸市西区院台5丁目6-1

開演時間 午前の部 / 10:30～(入場10:00～) 午後の部 / 13:30～(入場13:00～)

料 金 一般:1,500円 中学生以下:750円 未就学児:無料
障がい者:750円(付添ヘルパー750円) 全席自由席
※各席定員は400名となります。

お 申 込 TEL:078-993-1667 FAX:078-993-1668
(受付時間:平日9:00～17:00) ※FAXの方は裏面に必要事項を記入の上、お申し込みください。

主催:社会福祉法人かがやき神戸 社会福祉法人かがやき神戸を支援する会
この映画上映会の収益は、障がい者のグループホーム建設費に使われます。

法人・支援する会の動き 2025年 6月～8月

6月25日
支援する会総会
コカリナコンサート
優生保護裁判について

支援する会の総会の後にコカリナコンサートと優生裁判についての講演会がありました。

7月18日
臨時理事会

議案第1号 新ホームについて

8月8日
理事会

議案第 1 号 新ホームについて

8月15日
平和のつどい

平和についての朗読会をミニなでしこで行いZoomで各施設に配信しました。



8月25日
インドネシアから
特定技能生来日

かがやき神戸にあたらしいなかまが加わりました。



支援する会たより



「平和のつどい」ご報告

支援する会は、今年の夏も「平和のつどい」を、8月18日(月)14時からミニなでこを会場に開催しました。会場には約25名が参加され、同時にYUME HOMEチャンネル(Zoom)も発信されました。

前半は、木村章子さん指導の朗読サークルの皆さんが、戦争の悲惨さを訴え、平和への思いを含めた詩や文章をゆったりした口調で朗読しました。

最後に、浜田桂子さんの「へいわってどんなこと？」という詩を参加者18人で輪読しました。やさしい詩から素直な平和への願いが伝わりました。

朗読の感想では、谷上俊太郎さんの詩「死んだ男が残したものは」が歌になっているということなので今度聴いてみようということになりました。

第二部は、「平和」について会場参加者で語り合いました。

「神戸空襲の時は1才だった。三木に疎開していて無事だったが、神戸の方が赤くなっていたと聞いた」「戦後生まれだが、3才まで徳之島に住んでいたので沖縄が昭和47年に返還まで占領されていたこと、今でも米軍基地が多いことで心が痛む」「学校の先生が広島で被爆して大変苦労されたそう。その後も差別されないかとか子供が生まれるとき不安だったと話していた」「父母も祖父母も戦争体験はないが、実家に若い男性の写真が飾っており、特攻で亡くなった人だときいた」といった話が出ました。また、参加者の一人が持参した実際の「戦死通知」を回し読みしました。

忘れてはいけないことを、自分の言葉で語り合うことはとても大切です。

支援する会はこれからも、戦争と平和について語るつどいを続けていきます。 (平尾)

秋の交流イベント



WHOウォークの
お申込みは
こちらから

11月9日(土) WHOウォークin舞子公園

神戸医療生協主催の「WHOウォーク」に一緒に参加しませんか？

10:00～12:00の予定で、舞子公園を3kmウォーキングします。

モルック、ボッチャ、輪投げなどを楽しめるコーナーもあります☆

みなさんでいい汗流しましょう～！(申し込み要)

11月15日(土) 地域ふれあいまつりin広陵小学校

おまつりのお手伝いをします(10:30～14:00)。

YUME HOME建設につながる取り組みです。

昨年、支援する会は子供向けクイズ大会の説明係を担当しました。

バザーや飲食の模擬店も楽しみましょう♪(申し込み不要)

社会福祉法人かがやき神戸を支援する会(松田・濱田)

神戸市北区山田町下谷上字西丸山 20-30 TEL:078-582-5544 FAX:078-582-5526



支援する会に会費を
納入いただいた方

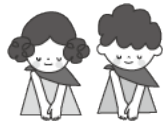
(2025年6月1日～8月8日までに
更新／入会された方 順不同・敬称略)

北区聴力言語障害者福祉協会 小川
倉掛伴子 倉掛一人 倉掛幸二 中村弥生
井上義治 坂口慶子 ダマ奈津子 佃隆子
松下裕子 佐々木妙 土谷龍一郎 小野康子
内野たまき 榊山登志子 高島登 永峰幸子
岡田江美 赤峯史子 光岡留美子 城戸章
城戸美智子 松本多仁子 松本亮久 松本祐子
松本結衣菜 松本里衣菜 松本朋大 松本美咲
清水敬一郎 清水章好 清水和代 清水裕太
高田喜代美 大山力三 大山千英子 大山翠
高坂智子 佐竹久仁子 佐竹秀雄 浅山優菜
井高朱美 東田真弓 澁谷浩子 平田ミキヨ
小倉清美 山本喜代己 山本隆一 片山好郎
片山秀子 片山博友 片山邦彦 今井紘二
今井寛 今井稔 松田崇介 団佳代 団延幸
藤田陽子 吉田芙美子 吉原由記 吉原雄二
山野由美子 瀬戸昭 大庭絵里 千住洋子
松本明美 雲井節子 谷口成子 田井野洋子
塩田進 飯島みどり 神田ふさ子 田中収
岩本幸子 楠本智士 楠本美紀 清水ひとみ
道副照代 横山晴朗 正田通子

ご協力ありがとうございます

(すでに更新された方で、お名前の載っていない方は次回掲載させていただきます)

2025年10月号 (No.108)
編集人：(社福)かがやき神戸を支援する会
定価：1部50円
事務局：神戸市北区山田町下谷上字西丸山
20-30 (かがやき神戸北事務所)
TEL：078-582-5544
FAX：078-582-5526
発行人：関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2
東興ビル4F



☆会費納入のお願い☆

● 社会福祉法人かがやき神戸を支援する会
の2025年度会費(2025年4月～2026年3月)
納入をお願いいたします。

★ かがやき神戸を支援する会
2025年 年度会費 1000円

会費振込先(郵便振替)

口座記号口座番号:00930-1-67354

加入者名:社会福祉法人かがやき神戸を

支援する会

かがやき神戸

検索



かがやき神戸のホームページも
ご覧ください！！

【編集後記】
昔から歩くのが好きで、近所を散歩したり、少し遠出をしたり、がっつり歩きたい時は実家の加古川から明石や姫路まで。最長は、当時住んでいた大阪から三重の伊勢神宮までの4泊5日を、野宿をしながらゴールしました。そういう経験もあり、歩いて距離をこなす自信がありましたが、8月のお盆休みに何年かぶりに近所の散歩を開始したところ、足が重く、前進する力が全くありませんでした。これには自分自身がくげんとなりました。今後、歩く力を取り戻すべきか、違う面の方向にシフトすべきか、自問自答している毎日です。(高橋)

前号(2025年8月8日発行)の記事の内容に誤りがありましたので、訂正の上お詫びいたします。

2P「国会請願署名に未来を託して！！」
向かって左写真のキャプション内
誤り：井高議員 正：井坂議員